

音と色で警告、換気促す



モニターのディスプレイには測定した数値を表示（上）、裏面の「？」マークは数値によって色が変わる（下）

男鹿工高コンピュータ部

男鹿市の男鹿工業高校コンピュータ部が、新型コロナウイルス感染対策で、換気を行う目安を示す二酸化炭素（CO₂）モニターを製作した。内蔵のセンサーが室内のCO₂濃度を測定して数値を表示、一定の値を超えると、換気が必要があるとして警告する。地元の船越小学校にモニター6個を寄贈した。

CO₂測定器を自作

この色を反転して表示し、警告音も発して換気を促す。

3年の高橋大地さん、秋山大地さん、1年の櫻庭優心さん、戸澤翔太さん、佐藤颯太さん、武藤悠生さんの6人。地域に貢献しようと、2021年度はCO₂モニター製作に力を合わせて取り組んだ。

デザインは3年生の発案。小学生に関心を持ってもらおうと、コンピュータゲームの「スーパーマリオブラザーズ」に登場する「ハテナブロック」をイメージした。

子どもの感染対策へ 船越小に6個寄贈

「？」の色も通常は緑色だが、だいたい色や赤色に変化する。

1年の佐藤さんは「イメージ通りに機械を動かすには苦勞も多かったけれど、完成して良かった」と振り返り、戸澤さんは「みんなのアイデアをまとめて、一つの作品ができた」と胸を張った。

22日には1年生4人が船越小を訪れ、館長光校長にモニター6個を贈った。館長は「子どもたちの健康や安全につながる数値を分かりやすく認識できるのでありがたい」と感謝し、「ものづくりへの関心にもつながるよう、子どもたちには男鹿工業生による手作りだということも伝えたい」と話した。



モニターを館長に手渡すコンピュータ部の部員。右から佐藤さん、武藤さん、戸澤さん、櫻庭さん

（藤原剣）